



医師会シンボルマーク

# みんなの健康

発展する横浜、  
もっと「人にやさしい街」に！

作家 山崎 洋子さん

横浜市医師会 古谷 正博 会長

みんなの健康 1 2014.1/2

No.239

## 新春号

### 新春対談

明けましておめでとうござ  
います。

一年がめぐり、新しい年の  
幕が開きました。昨年は、ア  
ベノミクス”の効果か、長ら  
く低迷状態にあった日本経済  
に、ちよつぱり明るい光が差  
し込んできたようです。今年  
は干支の「馬」にちなみ、跳  
躍、飛躍の年になるのではし  
うか。

さて、「みんなの健康」恒  
例の新春対談は、ゲストに横  
浜在住で、江戸川乱歩賞作家  
の山崎洋子さんをお迎えしま  
した。ミステリー小説を中心  
に、エッセイやノンフィク  
ションなど多彩な執筆活動を  
続ける一方で、開国の舞台と  
なり、いち早く欧米文化の息  
吹にふれた港町・横浜をこよ  
なく愛する山崎さん。

お正月の過ごし方や作家へ  
の道、超高齢社会の中での医  
療・福祉の在り方、横浜への  
思いと期待などについて、横  
浜市医師会の古谷正博会長  
と熱く語り合っていただけ  
でした。



作家 <sup>やまざき</sup>山崎 <sup>ようこ</sup>洋子 さん

**プロフィール** ● 1947(昭和22)年、京都府宮津市生まれ。コピーライター、児童読み物作家、脚本家などを経て、小説家に。1986(昭和61)年、横浜の遊廓を舞台にしたミステリー小説「花園の迷宮」で、第32回江戸川乱歩賞を受賞。文壇デビューを果たす。

その後、ミステリーを中心に、エッセー、ノンフィクションなど精力的に執筆活動を続け、「熱月(テルミドール)」「天使はブルースを歌う」「人魚を食べた女」「横濱 唐人お吉異聞」「横浜の時を旅する～ホテル・ニューグランドの魔法」など著書多数。

近年は舞台の脚本、演出も手がける。2010(平成22)年、地域放送文化賞(NHK主催)を受賞。神奈川県立新城高校卒業。横浜市在住。

### ◆私のお正月

**古谷** 本日はお忙しい中、新春対談によるこそお越しくださいました。山崎さんは毎年、お正月はどのような過ごし方をされていますか。

**山崎** 今はマンションに一人暮らしですので、お正月と言っても、特別なお祝いは何もありません。家でテレビを見ながら、ただボーッとしています(笑)。

**古谷** どんな番組をご覧になるのですか。

**山崎** お笑いが大好きなので、たいていはバラエティ番組ですね。あまり深刻なことを考えず、とにかく笑うこと。私はそれが一番の

健康法だと思っていますので、バラエティ番組はよく見ます。夜も、お笑い番組でまづ頭をリラククスさせ、それから床に就くようにしています。

**古谷** それはいい生活習慣ですね。医学的な見地からしても、「笑いは健康にいい」とされていますから。

**山崎** 古谷会長さんは、お正月をどう過ごされるのですか。

**古谷** まず楽しみなのが、正月恒例の箱根駅伝です。住まいが鶴見区で、中継点に近いので、そこまで観戦に出かけます。

それともう一つ、日本ラグビーフットボール協会の

会社にお勤めの方なら、人生に「定年」という一つの区切りがあり、それを契機に別の人生を生きることもできますが、私のようなモノ書きには区切りが一切ありません。そこで強制的に区切りをつけて、まだ心身が元氣なうちに、モノ書き

とは全く別の仕事をしてみたいんです。

**古谷** 人生の完全リセットですか。

**山崎** はい。できることなら住まいも変えて、見知らぬ土地へ行き、そこで作家とは全く別の生き方をしてみる。過去を一度、すべてゼロにして、新たな人生を生きてみたいんです。まあ、一種の冒険ですけど、そんなことができれば楽しいな、と思っています。

**古谷** そんなすごい夢をお持ちなんですか。私のように日々の生活に追われ、日常から脱け出せない人間にとっては、大変にうらやましい話です。

仕事をしている関係で、正月2日には国立競技場で、寒空の中、ラグビーの試合でメデイカルサポートとして参加します。だから、私の正月は結構忙しいんですよ(笑)。

**山崎** まあ、新年早々から大変なんですね。

**古谷** 昔から「一年の計は元旦にあり」と言われます。山崎さんは年頭に当たって、何か誓いのようなものは立てられていますか。

**山崎** 誓いと言うほど、大袈裟なものではありませんが、ここ数年は毎年のように「一度、人生をガラッと変えてみたい」という思いが強くなっています。

会社にお勤めの方なら、人生に「定年」という一つの区切りがあり、それを契機に別の人生を生きることもできますが、私のようなモノ書きには区切りが一切ありません。そこで強制的に区切りをつけて、まだ心身が元氣なうちに、モノ書き

### ◆作家への道

**古谷** 山崎さんは1986年(昭和61年)に、「花園の迷宮」で江戸川乱歩賞を受賞し、作家としての第一歩を踏み出されました。文壇へのデビューは38歳と遅い方と伺いましたが、小説家になることは、小さい頃から夢だったのですか。

**山崎** 私は京都府の北部にある、宮津という日本海側の小さな海辺の町で生まれ、育ちました。

**古谷** 確か日本三景の一つに数えられている天橋立で有名な所ですよ。

**山崎** はい、そうです。私は小さい時分から本が大好きで、小学校の高学年から中学生の頃は、町に一つし





横浜市医師会 **古谷 正博** 会長

かななかった図書館に入り浸って、アガサ・クリステイヤーエラリー・クイーン、ヴァン・ダインといった海外のミステリー作家の小説を読みあさり、本の中に出てくる華やかな洋館や生活スタイルなど、西洋文化の香りが一杯の、きらびやかな情景描写に胸をときめかせていました。

でも、当時は本を読むことが大好きなただの文学少女。長い文章を書くのは不得手だし、将来、作家になるうなんて夢は全くありませんでした。

**古谷** そうなんです。ちよつと意外ですね。

**山崎** でも、モノを書く仕

事には興味があったので、最初はコピーライターの職に就きました。その後、シナリオの世界に転じ、テレビのアニメーションやド

キュメンタリー番組の台本書きなどをしていたのですが、ディレクターや役者さんなど、回りの人たちの意見に左右される脚本書きの仕事に疑問を感じ、結局、頓挫。自分一人で自由にできる仕事は何か、と思索を重ねた結果、小説家として独立することを決心しました。

**古谷** いろいろと回り道の

末に、やつと自分の進むべき道を見つけたわけですね。

**山崎** ところが、小説家に

なる決心はしたものの、出版社に全くコネがなかったので、無名の私が原稿を持ち込んで、門前払いされるに決まっています。

そこで、手取り早く作家デビューを果たすには、文学賞を取って、名前を売るしかない。そう考えて、私が一番得意とするミステリー部門の江戸川乱歩賞に狙いを定め、小説の執筆と応募を続けました。

**古谷** それで、1回目の応募で、いきなり乱歩賞を受賞されたのですか。

**山崎** いえ、とんでもありません。何度か落選し、やつと「花園の迷宮」で、乱歩賞をいただくことができました。その時が38歳で、あと少しで40歳の台です。本当に遅咲きの作家デビューでした。

**古谷** 山崎さんの文章って、ワンセンテンスが短くて、歯切れが良く、とても読みやすいですね。

**山崎** 多分、それはシナリオを書いてきたからだと思っ

審査員の先生から「脚本みたいなお話だね」と評され、さらに「会話の部分の台詞がとても上手」と、お褒めの言葉を頂戴しました。

**古谷** 実は私も推理小説が好きで、小学生の頃に最初に読んだのが、名探偵シャーロック・ホームズが活躍する本でした。学校の教室の本棚に、ホームズの本があつて、ワクワクしながら読んだのを覚えています。

**山崎** そうですか。私が江戸川乱歩賞を受賞した時は、まだ賞金がなくて、代わりにいただいた記念品が、なぜかシャーロック・ホームズの像でした。なんで乱歩像じゃないんだろうと、その時は不思議な気がしましたけどね（笑）。

◆ 医療・福祉への提言

**古谷** ところで、山崎さんは16年前に、映画やテレビのシナリオ作家だったご主人を尿管がんで亡くされていますね。病魔にさいなまれたご主人の看護・介護では、大変にご苦労されたそうですね。その体験を通し、

日本の医療や福祉の現状について、どのような感想を持たれましたか。医療への要望・提言のようなものがありましたら、ぜひ聞かせてください。

**山崎** 夫は私より18歳年上で、がんが見つかった時は、病状が相当に進んでいて、もう末期の状態でした。治療をしても回復の見込みはなく、ホスピスで残された時間を安穩に過ごすのが、唯一の選択肢でした。

ところが、当時はまだターミナル・ケア施設のホスピスの数が少なく、末期がんの患者を受け入れてくれる病院がなかなか見つかりません。あちこち奔走し、最後は知り合いの法医学の先生の紹介で、何とか自宅近くの病院で受け入れてもらうことができました。

でも、それからがまた大変。医療費がかなりの高額になるため、私も一生懸命仕事をしながら、夫の看護と介護に努めました。本日に毎日が目の回る忙しさで、そのうち私自身が疲労こんぱい。食事が喉を通ら

ず、栄養失調でフラフラになつてしまいました。

その時に一番痛感したのが、患者の看護や介護で疲れ切っている家族をケアしたり、支えるサポート体制の大切さでした。そうしたものがないと、患者も家族も共倒れになつてしまいます。特にこれからは超高齢

社会の中で、病院だけでなく、在宅での医療や介護が必要となるケースがますます増えるわけですから、看護や介護を担う家族の負担を軽減し、しっかりとケアしてあげるサポート体制づくりを急がないと、大変なことになると思います。

**古谷** 本当にそうですね。団塊の世代が75歳の後期高齢期に突入する「2025年問題」も間近に迫っている

ますし、今の山崎さんのお話を伺って、私たち横浜市医師会も、横浜市行政と協力し合い、超高齢社会の中で生じてくる様々な医療や福祉問題の解決に向けて、真剣に取り組まなければいけないなど、改めて痛感させられました。

**山崎** ぜひ、よろしく願います。もっとも、医師会や行政任せではなく、私たち市民もできる範囲で、積極的に協力しないといけないんですけどね(笑)。

### ◆横浜への熱い思い

**古谷** 話は変わりますが、山崎さんは、昔から横浜へのあこがれが強かったそうですね。一体、横浜という街のどこに、そんなに惹かれたのですか。

**山崎** 先ほどお話ししたように、私は子供の頃から欧米のミステリー小説に親しみ、外国のきらびやかな生活にあこがれを抱いていました。も



ちろん、当時は今のよう簡単に海外に飛んで行ける時代ではありません。外国にあこがれる地方の文学少女にとつて、日本で一番外国に近い街が、外国の船がたくさん寄港し、童謡「赤い靴」にも歌われた横浜だった。きつとそんなことから、まだ見ぬ横浜に強く惹かれていったのだと思います。

**古谷** 当時は横浜を見たこともなく、全く知らない街だったわけですか。

**山崎** ええ、横浜は心の中でイメージするだけの街でした。

**古谷** 横浜を初めて、自分の目でご覧になったのは、いつ頃のことなんですか。

**山崎** 中学2年生の春です。

修学旅行で東京方面へ出てきて、その時に初めて横浜にも立ち寄りました。

ただ、修学旅行では横浜の街をあちこち見て回ったはずなのに、今も記憶がはつきりしているのは、なぜか山下公園の思い出だけなんです。公園から海を眺め、「ここが横浜なんだ。

大人になつたら、必ずここに戻つてこよう」と心に誓つたのですが、そのことだけは鮮明に覚えています。

その言葉の通り、長じてからハマっ子の主人と結婚し、それを契機に、あこがれの横浜に転居して、以来、今日まで35年近く横浜暮らしを続けています。

**古谷** 山崎さんは、今やれつきとした「横浜人」ですが、これからの横浜にどんなことを期待しますか。

**山崎** 横浜は終戦直後の焼け跡から見事に復興をとげ、国内でも屈指の大都市に発展しました。臨海部のみなとみらい21地区には、ランドマークタワーをはじめ、高層ビルが林立し、たくさんの観光客などで賑

わっています。

ただ、その一方で余りにも巨大になり過ぎた感も否めません。これからは発展ばかりを追い求めてきた都市づくりの在り方を見直し、もっと高齢者や障害者など「弱者にやさしい横浜」になつて欲しいな、と思つています。

例えば、私の大好きな都市の一つにカナダのバンクーバーがあります。ここでは街の至る所にベンチが置いてあつて、ちよつと疲れたら、一休みできるようなつていて。しかも、これらのベンチはすべて市民からの寄贈によるもので、ベンチには寄贈者の名前入りプレートが貼つてあります。何とも粋な計らいですし、とにかく弱者への配慮が行き届いています。

ぜひ、横浜でもこうしたことを見習つて、発展の中にも、やさしさが感じられる街づくりを進めて欲しいですね。

**古谷** もっと広く言えば、弱者も含めて「人にやさしい街づくり」ですね。そう





したものが、横浜の魅力の一つに加われば、本当に素晴らしい街になるでしょうね。

ところで、日本は世界一の長寿国です。長い人生を健康で、元気に生きるために、山崎さんはふだんから何か健康法はなさっていますか。

### ◆私の健康法

**山崎** 私は昔から運動が嫌いで、体を動かす健康法は何もやっていません。

主治医の先生からは「とにかく歩きなさい。歩くのはタダだから」とウォーキングを勧められるのですが、外反拇趾がいはんぼしもあるので、歩くのはとても苦手です。従って、非常に不健康な生活を送っています(笑)。

ただ、体は動かさない代わりに、食事には気を付けています。一人暮らしなので、なるべく外食は避け、栄養バランスを考えたが、自分で調理した食事を自宅です。家だと野菜もたっぷり食べるし、健康にはとてもいいのではないか、と思っています。

**古谷** 実は私も、患者さんには健康法の大切さを一生懸命説くのに、自分ではほとんど何もやっていないんですよ(笑)。

ただ、専門が整形外科なので、寝たきり予防の観点から、主に中高年世代の皆さんに対して、日頃から筋肉や骨、関節といった「運動器」を鍛える運動が非常に大事であることを説き、そのための取り組みも行っていきます。

**山崎** 運動器の鍛錬? それって何ですか。

**古谷** ロコモティブ・シン

ドROOM(運動器症候群、通称ロコモ)という言葉が聞かれたことがあると思うのですが、高齢者が寝たきりなど要介護状態になる原因の多くは、関節や筋肉などの運動器の機能が衰え、ロコモ状態になるからです。ロコモになると、転倒や骨折などが起きやすくなり、ひいては寝たきりにつながります。そこで、このロコモを体操などの運動によって予防する。そうした取り組みを、私たち整形外科医が中心になって進めているわけです。

**山崎** なるほど。そういうことでしたら、私も団塊世代の一人として、早速、始めてみないといけませんね(笑)。

**古谷** さて、話は尽きませんが、そろそろ予定の時間になりました。最後に年頭に当たって、今年の抱負を。山崎さんは、これからどんな小説をお書きになる予定ですか。

**山崎** 実は、最近はこちら

と小説に意欲をなくしているんです(笑)。

そこで、今は女性の老後、それも一人暮らしの女性の老後をテーマにした作品を、ノンフィクションの形で執筆中です。

超高齢社会を迎え、立派な老後や楽しい老後の過ごし方といったハウツー本はたくさん出版されているのですが、それとは正反對の、不安だらけの老後や頑張らない老後の本はありませ

ん。そこで、私自身の生い立ちも絡めて、不安だらけで、頑張らない女の老後の本を書きたいと思っています。

本当なら、もうとっくに完成しているはずなのに、執筆が遅れ、刊行はもう少し先になる予定です。

**古谷** それは楽しみです。出版されたら、すぐに読ませていただきます(笑)。

**山崎** 古谷会長さんは、どんな抱負をお持ちですか。

**古谷** 私は昨年4月に、横浜市医師会長に就任し、会長として初めての新年を迎えました。年頭に当たり、

その責任の重さを改めて感じています。

市医師会は、開業医を中心とした団体で、休日急患診療所や夜間急病センター、学校医、産業医など、市民の皆さんの命と健康を守るために、日頃から様々な活動をしています。しかし、残念ながら、そうした実態がまだ十分に理解されているとは申せません。

そこで、今年は広く市民の皆さんに、医師会の真の姿を知っていただくため、PR活動などに積極的に取り組みたい。そして「みんなが健康で、元気いっぱい」の街・横浜の創造をめざして、より一層努力していきたいと考えています。本日はありがとうございました。



# 医師会とはなんですか？

横浜市医師会は市民の皆様の健康を守るべく活動しています。  
具体的には次のような事業に取り組んでいます。

## 学術



医師は日々進歩していく医療にあわせて、常に医学の知識を広げ、技術の習得に励んでいます。横浜市医師会では会員の医師や専門医会と協力し、学術講演会や研修会を開催したり、横浜市大と連携し、医師の資質向上のために臨床研修を実施しています。その数、年間500回以上にのぼります。これらの研鑽を通して医師は市民の皆様が安心できる、よりよい医療を提供するよう努めています。

## 予防接種・健診



子供が生まれると、重大な感染症を防ぐため、予防接種が義務付けられています。現在予防接種は8種類あります。成人には高齢者インフルエンザや麻疹風しんワクチンの接種など、期間や対象が限定された公費予防接種も実施しています。また、健診については、市健康診査や特定健康診査、妊婦さんには妊婦健診、生まれた子には乳幼児健診を医療機関で実施し、市民の健康を守っています。横浜市医師会では、これら定期予防接種及び各種健診等が、医療機関で円滑に実施できるように活動しています。

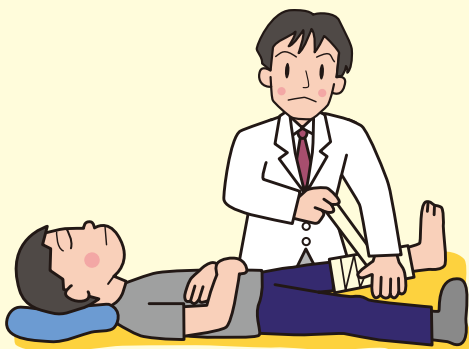
## 休日急患診療所 夜間急病センター



横浜市内各区に休日急患診療所を設置し、毎日曜日・祝日・年末年始（12/30、1/3）、10時（青葉区は9時）から16時まで、内科・小児科の診療を行っています。また、市内3カ所に夜間急病センターを設置し、毎夜間20時から24時まで内科・小児科、また桜木町では内科と小児科に加えて眼科と耳鼻咽喉科の診療も会員の医師が交替で勤務し、初期治療にあたっています。（8頁参照）

休日急患診療所も夜間急病センターも、受診した患者さんが入院を要する場合や緊急の検査等が必要な場合は、専門的な医療機関への紹介も行っています。

## 災害対策



市内で大きな震災が発生し、避難生活を余儀なくされるような場合、被災者などへの医療提供は欠かすことはできません。そのような災害時、横浜市医師会では、医療救護隊を設置し、避難所などへの巡回診療を行うほか、自院で診療が可能な医療機関については、市民の方々へ情報提供を行い、診察や治療を受けられる体制を整えています。診療が可能な医療機関は『診療中』といったのぼり旗を掲げます。

## 産業医

産業医は職場で働く人達の健康と安全を守るため、労働災害の防止や職業性疾患の予防に大きな役割を果たしています。横浜市医師会には600名あまりの産業医がおり、それぞれ職場において健康診断結果の説明や生活改善指導、作業環境改善のアドバイスやメンタルヘルス、過労などの相談に応じ、快適な作業環境のもとで仕事が行えるように指導、助言しています。



## 学校医

学校に通う児童・生徒の健康管理を専門的見地から行っているのが学校医です。学校医は、就学时健康診断や定期健康診断を学校関係者と協力して行い、学校感染症の流行時には学級閉鎖や再開などの対応について助言を行います。また、学校で開催される学校保健委員会に参加し健康教育に関する指導を行います。横浜市医師会では学校医の研修などを行い、横浜国立学校における学校保健活動の推進に協力しています。



## 保育園医

保育園に通う園児の健康管理を行っているのが保育園医です。保育園医は、定期健康診断に加え、集団保育を行う上で配慮を必要とする疾病に関する管理指導や保育園職員への助言を行います。

横浜市医師会では横浜市の待機児童解消対策により保育園の数が増えるなか、保育園医の確保と研修を行っています。また、平成7年から毎年、約3万人の園児を対象に市内保育園児予防接種実態調査を実施することにより、ワクチン接種率向上に寄与しています。



## 在宅医療

在宅医療には、「かかりつけ医」が急に具合が悪くなった患者さんのお宅に伺う「往診」と、在宅で療養を行っている患者さんを定期的・計画的に診療する「訪問診療」があります。

介護を必要とする高齢者や何らかの疾病・障害を持つ要介護者が、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けられるためには、地域における医療・介護の関係機関が連携して、在宅医療・介護の提供を行うことが必要です。横浜市医師会では「かかりつけ医」制度を堅持しつつ、在宅医療を推進しています。



## 行政活動

行政と横浜市医師会は協力して様々な市民向けの保健医療サービスを提供しています。各種健康診査、予防接種、介護福祉、医療安全推進などにかかわる行政の各種委員会において、横浜市医師会が選任した委員が専門的意見を述べ、より良いサービス提供のため努力しています。また、市民スポーツ大会における医療救護班への協力や区民祭り、防災訓練にも積極的に参加しています。



# 休日・夜間に急病になった場合は

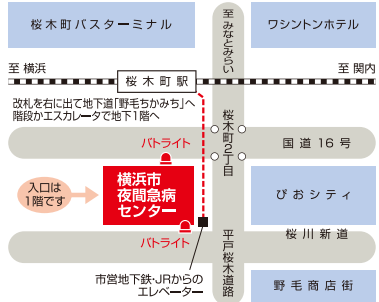
休日の昼間はこちらへ

内科・小児科 診療時間：午前9時～12時 午後1時～4時		内科・小児科※歯科 診療時間：午前10時～午後4時	
青葉区休日急患診療所 ☎(045)973-2707	金沢区休日救急診療所 ☎(045)782-8785	※但し、歯科についてはGW・年末年始を除いて、午前10時～正午まで	
内科・小児科 診療時間：午前10時～午後4時			
旭区休日急患診療所 ☎(045)363-2020	都筑区休日急患診療所 ☎(045)911-0088	鶴見区休日急患診療所 ☎(045)503-3851	
泉区休日急患診療所 ☎(045)801-2280	戸塚区休日急患診療所 ☎(045)852-6221	中区休日急患診療所 ☎(045)622-6372	
磯子区休日急患診療所 ☎(045)753-6011	西区休日急患診療所 ☎(045)322-5715	保土ヶ谷区休日急患診療所 ☎(045)335-5975	
神奈川区休日急患診療所 ☎(045)317-5474	緑区休日急患診療所 ☎(045)937-2300	南区休日急患診療所 ☎(045)731-2416	
港南区休日急患診療所 ☎(045)842-8806			
港北区休日急患診療所 ☎(045)433-2311			
栄区休日急患診療所 ☎(045)893-2999			
瀬谷区休日急患診療所 ☎(045)302-5115			

毎日の夜間はこちらへ

<b>横浜市夜間急病センター</b> ☎(045)212-3535 内科・小児科・眼科・耳鼻科：午後8時～午前0時 <b>横浜市北部夜間急病センター</b> ☎(045)911-0088 都筑区休日急患診療所1階 内科・小児科：午後8時～午前0時 <b>横浜市南西部夜間急病センター</b> ☎(045)806-0921 泉区休日急患診療所 内科・小児科：午後8時～午前0時	<b>①横浜市救急医療情報センター</b> 24時間対応 #7499 <b>②横浜市小児救急電話相談</b> 平日：18時～翌朝9時 土曜：13時～翌朝9時 日祝日・年末年始：9時～翌朝9時 または ☎045-227-7499 <b>横浜市歯科保健医療センター</b> ☎(045)201-7737 休日・夜間救急歯科診療 休日診療：午前10時～午後4時 夜間診療：午後7時～11時
--	---

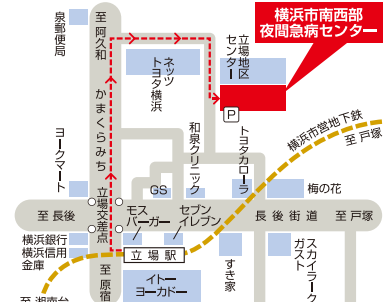
## 横浜市夜間急病センター ☎045-212-3535



## 横浜市北部夜間急病センター ☎045-911-0088



## 横浜市南西部夜間急病センター ☎045-806-0921



## 午前0時以降における 初期救急診療は

※受診の際は、必ず事前に電話確認してください。

小児科（小児救急拠点病院）		内科	
都筑区	昭和大学横浜市北部病院 ☎(045)949-7000	西区	けいゆう病院 ☎(045)221-8181
港北区	横浜労災病院 ☎(045)474-8111	中区	社会保険横浜中央病院 ☎(045)641-1921
鶴見区	済生会横浜市東部病院 ☎(045)576-3000	保土ヶ谷区	聖隷横浜病院 ☎(045)715-3111
保土ヶ谷区	横浜市立市民病院 ☎(045)331-1961	旭区	横浜旭中央総合病院 ☎(045)921-6111
戸塚区	国立病院機構横浜医療センター ☎(045)851-2621	旭区	上白根病院 ☎(045)951-3221
中区	横浜市立みなと赤十字病院 ☎(045)628-6100	港北区	菊名記念病院 ☎(045)402-7111
港南区	済生会横浜市南部病院 ☎(045)832-1111	緑区	横浜新緑総合病院 ☎(045)984-2400
		青葉区	横浜総合病院 ☎(045)902-0001
		戸塚区	戸塚共立第1病院 ☎(045)864-2501
		戸塚区	戸塚共立第2病院 ☎(045)881-3205
		戸塚区	東戸塚記念病院 ☎(045)825-2111
		瀬谷区	横浜桐峰会病院 ☎(045)303-1151

## tvk「健康最前線」

### 1月～3月の放送予定

1月★10日 会長年頭挨拶	★28日 腹部の超音波による画像診断①
★17日 脳卒中の予防と救急①	3月★7日 腹部の超音波による画像診断②
★24日 脳卒中の予防と救急②	★14日 骨粗しょう症①
★31日 LOH症候群①	★21日 春分の日のためお休み
2月★7日 LOH症候群②	★28日 骨粗しょう症②
★14日 乳がん①	
★21日 乳がん②	

毎週金曜日午後1時30分より（生放送のため、多少前後のずれがあります。ご了承下さい。）

## 横浜市皮膚科医会主催 市民公開講座

講演 悩まず聞いて、毛の話

日時：平成26年3月9日(日) 開演：9時30分  
 会場：横浜情報文化センター情文ホール（横浜市中区日本大通11番地）

### 募集要項

応募方法 ▶ 専用応募用紙のFAX又は官製はがき  
 締め切り ▶ 平成26年3月1日必着  
 応募先 ▶ 〒231-0827 横浜市中区本牧和田12-22 渡辺皮膚科クリニック内 市民公開講座係  
 ☎045-622-2333 ㊚045-622-2251

※当日は皮膚科専門医による相談コーナーとお化粧のワンポイントアドバイスコーナーも準備しております。